学校番号	T0110

平成３１年度　地理歴史科

教科	地理歴史科				科目名	日本史B	
学年	２年	履修	選択	単位数	3		
レポート	9通以上		スクーリング	6回以上	テスト	1回以上	
使用教科書（発行社）			高校日本史　改訂版（８１山川日Ｂ－３１４）				
科目の目標	我が国の歴史の展開を諸資料に基づき地理的条件や世界の歴史と関連付け，現代の諸課題に着目して考察することによって，歴史的思考力を培い，国際社会に主体的に生きる日本国民としての自覚と資質を養います。						
担当者からのメッセージ	◇授業では，板書やプリント等を併用するので，ノートや綴じることのできるファイルを用意すること。 ◇通常の系統的学習のほか「歴史と資料」「歴史の解釈」「歴史の説明」「歴史の論述」などではレポートの提出や発表をおこなう場合があるので，自分の視点や考察した考えをまとめて表現することを念頭において学習すること。						

評価の観点	a. 関心・意欲・態度	b. 思考・判断・表現	c. 資料活用の技能	d. 知識・理解
評価規準	わが国の歴史に対する関心と課題意識を高め、それを意欲的に追究するとともに、国際社会に主体的に生きる主権者として、歴史から学ぶ態度を身につけようとする。	わが国の歴史的事象から課題を見いだし、それを地域性や歴史的背景、日常生活との関連を踏まえて多面的・多角的に考察し、過程や結果を適切に表現している。	地図や統計、画像など日本史に関する諸資料を収集し、有用な情報を選択して、読み取ったり図表などにまとめたりしている。	わが国の歴史的な諸課題についての基本的な事柄や追究の方法を理解し、その知識を身に付けている。
成績評価方法	平常の授業に取り組む姿勢、定期考査や小テストの結果、課題などの提出物の状況を、①【関】関心・意欲・態度、②【思】思考・判断・表現、③【技】資料活用の技能、④【知】知識・理解の観点で総合的に判断し評価します。			

学期	単元・学習内容	主な評価の観点 a	b	c	d	単元（題材）の評価規準	評価方法
前期	1.「原始･古代の日本と東アジア」	○	○	○	○	a: 日本人と大陸との関係について、身近な生活や文化財を反映して関心を持つ。 b: 旧石器時代から平安時代までの日本列島における原始社会や古代国家の成立と変質について，それぞれの時代の社会・文化の特質に留意し，東アジア世界の動向と関連付けて総合的に考察する。 c: 考古学等による新しい歴史的事実の解明によって歴史が書き改められつつあること、資料を用いて調べる。 d: 旧石器時代から平安時代までの日本列島における原始社会や古代国家の成立について、歴史を考察する方法を理解しながら把握する。	定期考査 授業プリント レポート 論述 態度観察
	2.「中世の日本と東アジア」	○	○	○	○	a: 中世国家の成立から戦国時代までの中世国家の推移について、その社会・文化の特色から注目してみる。 b: 律令体制とも幕藩体制とも異なる中世国家の特質を多面的にとらえる。 c: 東アジア世界の動向と国内諸地域の地理的特色など資料と関連付けながら考察する。 d: 中世国家の成立から戦国時代までの中世国家の特質を、歴史的事象の推移、因果関係などに基づいて理解する。	定期考査 授業プリント レポート 論述 態度観察

後期	3「近世の日本と世界」	○	○	○	○	a: 安土桃山時代から江戸時代までの社会・文化の変化から注目してみる。 b: 織豊 政権 、幕藩体制の特色、またその変化について、社会や文化の動向 や国際関係の変化と影響を考えながら理解する。 c: 中世までとは異なる近世社会の特質を、資料の比較によって調べる。 d: 近世国家の推移について、その社会・文化の特質に留意し、ヨーロッパ諸国のアジア進出を含む世界の動向及び国内の地理的諸条件などと関連付けながら総合的に考察する。	定期考査 授業プリント レポート 論述 態度観察
	4.「近代日本の形成と世界」	○	○	○	○	a: 農村や都市が変化して幕藩体制から近代国家へと変化する時代背景に関心を持つ b: 大政奉還から戊辰戦争を経て廃藩置県に至る、幕末～明治の政治的変革と国家的統一過程を考察する。 c: 琉球と樺太・千島など、近代日本の国境確定過程を地図や資料で整理する。 d: ペリー来航から明治時代の末期までの近代国家の形成過程について、欧米諸国のアジア進出が進展する国際環境のなかで、中央集権的統治機構と資本主義経済を特質とする近代国家を形成した歴史的過程を総合的に考察しとらえる。	定期考査 授業プリント レポート 論述 態度観察
	5.「両世界大戦期とその後の日本と世界」	○	○	○	○	a: 第一次世界大戦前後から第二次世界大戦終結、その後の現代に至るまで、社会や文化の変化に関心を持つ。 b: 世界的な経済の混乱などの国際環境が大きく変化するなかで、国際社会における日本の立場と対外政策も大きく変化し、戦争に突入していった歴史的過程と冷戦期・冷戦終結後の世界的な潮流を総合的に考察しとらえる。 c: 第一次世界大戦前後から第二次世界大戦終結、および戦後の冷戦期から冷戦終結から現代に至るまで、経済的な特徴を資料で捉える。 d: 第二次世界大戦以前と以降の日本について、国家としての再生やその後の経済的発展などについて、国際環境と関連付けて総合的に考察する。	定期考査 授業プリント レポート 論述 態度観察